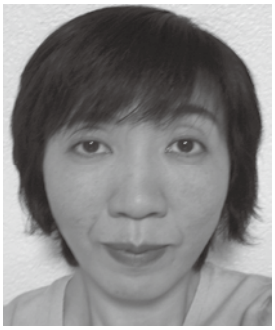
フォローアップ塾研究成果報告

「エコ名人を探せ！」塾



塾長　佐藤　恵

■ 塾長コメント ■

2008 年度からスタートした「エコ名人を探せ！」塾ですが、なんとか卒業までこぎつけました。

ひとえに塾生の皆さん、また、塾活動に協力していただいた方々のおかげです。本当にありがとうございました。

塾活動を通じて、長崎には魅力的な人がたくさんいることを知ったのが私にとって一番の収穫でした。

昨年の東日本大震災を経て、環境問題は、地球温暖化問題のみならず、社会の持続可能性を特に意識したものに変わってきたと思います。

どんな未来を望むのか個人個人に問われているように感じます。

何をどこで買うのか、安い商品の背後にはどんなしくみがあるのか知る努力をする、など、一人ひとりの毎日のちょっとした意識や行動が世の中を動かしていくのではないでしょうか。

今後も、「エコ名人を探せ！」塾で築いたつながりを大切にしながらなんらかの形で、長崎市をより魅力のある街にする活動に微力でも関わっていきたいと思います。

■ 塾の目的 ■

環境問題抜きには、これからの社会について考えることは不可能になってきている状況の中、市民が関心をもってもらえるような切り口で、地元長崎での実践例を紹介したり、気軽に環境活動にとりくめるようなきっかけづくりをすることを目的としています。

■ 塾の研究・活動内容 ■

今年度は、「ながさきエコネット」との関わりの中での活動が中心となりました。

「ながさきエコネット」とは、長崎市の環境関係の市民団体がバラバラに活動するのではなく、協力し合えることは力を合わせていこうという取り組みで、一昨年度からスタートしました。

今年度の大きな取り組みは、10 月に水辺の森公園で開催された「エコライフフェスタ」での「ながさきエコネット」企画のひとつ、「まるごと竹コーナー」に関わったことです。

塾としても一昨年度から竹害問題に取り組み、市内の竹林に入らせてもらい、竹炭・竹酢液作り、販売を行っています。

今回、市内の竹をテーマに活動している団体に声をかけ、一堂に介してもらい、わかりやすいモニュメントとして「竹ドーム」を作りました。

◆竹林で竹を切りだし、竹ドームの試作中

◆フェスタ当日の竹ドームの様子
高さが４メートル近くあります。

◆竹ドームの中では名人から子供たちが竹トンボ作りを教わりました。
(画像は名人が竹笛を作る様子)

他にも、竹パウダーの無料配布

竹箸作り、竹筒鉄砲作りなど、竹を利用したワークショップが人気を博していました。

反省点としては、竹の害をパネルにしたものが雨のためテント内の展示となり、来場者に伝わりにくかったことです。

竹がなぜ、エコと関係があるのか一見してわかる工夫が必要だったと思いました。

他にも今年度の活動としては、２００８年度、２００９年度と緑のカーテンコンテストに関わったことから、２０１１年度のコンテスト参加をよびかける「緑のカーテンＱ＆Ａ」と題したフライヤーを製作しました。

これは市の環境保全課との協働で、塾生が緑のカーテンに適したつる植物の栽培のコツをみどりの課に取材して製作したものです。

裏面には、ながさきエコネットの紹介と所属団体のインフォメーションを記載しました。

このフライヤーは、環境保全課が緑のカーテン用に配布したゴーヤや朝顔の種を受け取った市民に配布されました。

■ 塾活動の成果 ■

この四年間に塾活動を通じて出会った「エコ名人」録を製作し、３ 月の伝習所まつりにて配布する予定です。

また、塾生が寒い中大変な思いをした作った竹炭、竹酢液の配布も行います。

同時に竹害(竹林の現状)や竹の有用性についてもわかりやすくまとめたフライヤーもお渡しできればと思っています。

川さるく 森川里海塾

塾長　兵働　馨

■ 塾長コメント ■

「川さるく　森川里海塾」は、平成 21 年度、22 年度の活動で当初の目標であった、長崎の川を紹介する「ながさきよか川マップ」を作成し、長崎市内の小中学校全校や河川や環境に関する活動団体に配布し、一応の成果を収めることができました。

平成 23 年度は継続塾として、発足からのもう一つのテーマである「銅座川のいしだたみ水路を活かしたまちづくり提言書の作成」に取り組んできました。銅座川の思案橋から下流では、戦後の混乱の中で、周辺に出来た闇市の移転の為に暗渠となり、川底にいしだたみが敷かれた水路を隠してしまいました。暗渠となってからおよそ 60 年が経過し、市民からその存在が忘れ去られようとする中で、私達塾生はこの 3 年間で合計 4 回銅座川の暗渠内に入り現況の調査を行いました。

銅座川のいしだたみ水路は、今も、ほとんど昔と変わらない状態で残っておりますが、一部がはがれ始めていたり、下流では海からの浸食が進んでいることから、早急な修復や保全が必要と思われます。私達は、この銅座川に眠る「いしだたみ水路」の歴史的価値や銅座川形成の歴史を調査し、長崎の市街地観光や市民生活に潤いを持たせるまちづくりの為に「銅座川のいしだたみ水路を活かしたまちづくり」の活動を継続していきたいと思います。

そして、いつの日か銅座川のいしだたみ水路が市民や観光客の憩いの場となることを夢見ております。

■ 塾の目的 ■

➢「銅座川のいしだたみ水路を活かしたまちづくり」の提言書作成

➢長崎の市街地を流れる「銅座川」の暗渠の下に隠されている「いしだたみ水路」を調査研究し、その結果をもとに長崎のまちづくりを考える。

■ 塾の研究・活動内容 ■

① 銅座川形成の歴史的経過調査(絵図などの確認)

② 銅座川周辺の歴史的変遷の調査(古写真等の収集と確認)

③ 石畳水路施工時期の調査(長崎年表、土木学会資料等)

④ 銅座川の暗渠内現地調査(石畳施工距離、川幅、暗渠の構造等)

⑤ 銅座川を生かしたまちづくりに関する検討

➢暗渠を開放して石畳を見せることの意義や効果の検討

⑥ 銅座川を生かしたまちづくりの具体的なプランの作成

➢手法(模型、CG、パース等)

➢市民へのアピール方法（ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑの開催、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄの作成等）

➢提言書の作成

平成 23 年度においては、①から④まで

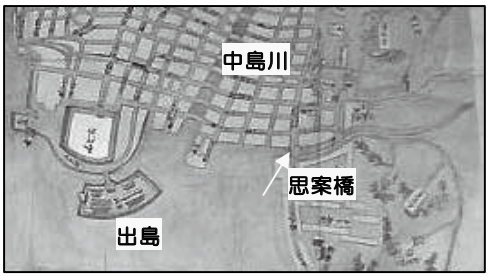
の調査を実施し、概要についての把握ができました。

今後は、具体的なまちづくりのプランの作成に向けての活動を続けていきたい。

■ 塾の研究・活動内容 ■

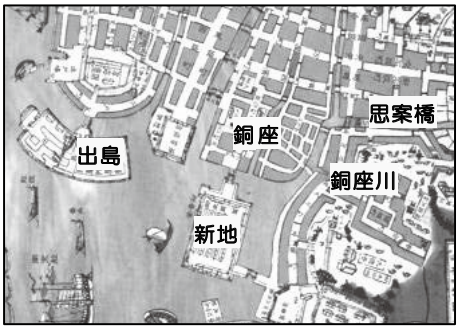
⑴ 銅座川形成の歴史

【元禄９年(1696)頃　肥前長崎図】



この時代の銅座川は、現在のウィズビルの前付近が河口で「玉帯川」と呼ばれていた。その後、現在の銅座町一帯の埋め立てにより現銅座橋付近まで河口が延長されたことで銅座川は形成された。

【享和２年(1802)頃　肥州長崎図】



明治時代に入り、さらに長崎港の埋め立てが進む中で、銅座川は新地中華街の北を流れる現在のルートと銅座橋付近から南進し、新地の南側を通り市民病院前を河口とする二つの河口ができた。最終的には戦後の埋め立てにより現在の銅座川となった。

この様な歴史を経て銅座川は形成されてきましたが、この歴史の中のある時期に銅座川の川底に石畳が敷かれました。石畳が敷かれた時代は現在のところ特定されていませんが、明治 19 年頃、長崎市街地の大溝、中溝でコレラの防疫対策として、川底に石畳を敷く工事が施工されました。又、大正４年頃に撮影されたとみられる思案橋の写真に石畳の川が写っていることから、明治中期から大正の初め頃に施工されたと考えられます。

【大正４年頃の思案橋付近】

(長崎電気軌道㈱所蔵写真)

そして、石畳が敷かれた銅座川は、戦後の混乱期に思案橋線の電車の線路上に出来た闇市を移転させる為暗渠となりその姿を見ることが出来なくなりました。

このような時代背景の中で見ることが出来なくなった銅座川のいしだたみ水路を私達は調査してきました。銅座川のいしだたみ水路はまだ健在です。しかし、一部では石がはがれ始めています。歴史的に価値のある土木遺産として、いしだたみ水路を残し活用していく為に私たち森川里海塾は活動しています。

■ 塾活動の成果 ■

これまでの調査結果以外に成果はありませんが、「銅座川のいしだたみ水路を活かしたまちづくり」のプランにご期待下さい。

長崎洋館音楽舞踏塾

塾長　槙山　智子

■ 塾長コメント ■

21 年度活動日数 43 日、22 年度 53 日、23 年度 46 日。21 年度からスタートした長崎洋館音楽舞踏塾も３年目が終了しました。

手探りの１年目、様々な体験から道を作っていくことができた２年目。フォローアップの補助を受けながら、さらに実践や研究を積み重ね、次の段階に向けての具体的な要素も見えてきた３年目。

歴史研究も含め、今後もまちの魅力 UP につながる活動を続けていければと考えています。

■ 塾の目的 ■

長崎洋館音楽舞踏塾では、長崎の歴史ある文化財の洋館と、音楽、ダンスなどを通して、夢のあるまちの催しや、人々の交流の場を創ることを目的として活動してきました。さらに 23 年度は、舞踏の普及と実践チームの質の向上、自立に向けての基盤の確立を課題としました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

長崎の洋館に関連した時代の舞踏の練習会、舞踏披露。体験会、公開講座、舞踏会などのイベントの開催。

洋館と音楽・舞踏に関する歴史、文化の研究と発信。他県からの集客も意図したネットでの PR 等。

23 年度塾開催日／4 月 20 日 27 日。5 月 6 日 11 日 18 日 19 日 25 日 31 日。6 月 1 日 3 日 5 日(出島イベント出演)15 日 29 日。7 月 6 日 13 日 22 日 29 日。8 月 3 日 12 日 31 日。9 月 7 日 17 日(出島発の洋館ウォークと旧香港上海銀行でダンスワークショップ)18 日(青年の家で町田先生講習)28 日。10 月 6 日 12 日 19 日 26 日。11 月 3 日(佐賀視察とダンスワークショップ)9 日 30 日。12 月 7 日 14 日 21 日 27 日(旧香港上海銀行でイヤーエンドパーティ)。平成 24 年 1 月 11 日 14 日(市立図書館でロチ紹介のイベント)15 日(南山手レストハウスで舞踏講習会)18 日 25 日。2 月 1 日 8 日 15 日。3 月 7 日 14 日、20 日(伝習所まつりと夜はイングリッシュカントリーダンスのイベント)。

／計 46 日

＊練習会は主に旧香港上海銀行で開催。

■ 塾活動の成果 ■

◎ 6 月 5 日(日)は県主催「ながさきスィーツフェスタ」 に出演。出島芝生広場で舞踏披露＆体験会を行いました。明治の主な舞踏や、お菓子に関連したワルツなどの紹介も交えながら、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただきました。

◎ 9 月 17 日(土)は長崎居留地まつりのタイアップイベントを開催。(1)長崎洋館音楽舞踏塾洋館ウォークとして、出島発市内の洋館

巡りツアーをアトラクション付で企画。⑵19 世紀明治の舞踏会ワークショップとして、ゲスト講師に町田芽先生(日本ヨハンシュトラウス協会)を迎えて旧香港上海銀行記念館で、初めてでも楽しめるグループダンス中心のワークショップを開催。鹿鳴館時代の日本の舞踏会でも使われていたダンスカードなども作成し、参加者に体験してもらいました。重ねて、翌 18 日(日)は塾生さん向けの町田先生の講習会で学びました。

◎11 月 3 日(祝)には、佐賀の洋館視察研修と交流ワークショップを実施。出島にも関連する佐賀城本丸歴史館→明治の洋館活用さがレトロ館→歴史的建造物が連なる佐賀歴史民俗館で、歴史や洋館活用についての視察研修を行いました。また、旧古賀銀行では「明治の洋館で鹿鳴館時代のダンスワークショップ」を催し、長崎の洋館や塾の PR を行いました。

◎2012 年 1 月 14 日(土)は「ピエール・ロチと舞踏会～鹿鳴館の舞踏体験」を市立図書館多目的ホールで開催。長崎市十人町に滞在し、一人の日本人女性と過ごした日々を『お菊さん』として発表したフランスの小説家ピエール・ロチは、鹿鳴館のパーティにも参加し、そのときの見聞を「江戸の舞踏会」に綴り、芥川龍之介の作品などにも影響を与えました。イベントでは、ロチと長崎や「江戸の舞踏会」、当時の音楽やダンスを、ゲスト朗読に榎本 敏之 さん、演奏に Ensemble Windy さんを迎えて、映像と朗読と音楽とダンスのコラボでまとめました。市内在住でもロチのことを初めて知った方々が多かったり、佐賀でのワークショップに参加された方が長崎へも足を運んでくださったり、県外からの問合せ等では具体的なニーズのわかる反応も出て、有意義な催しとなりました。翌日は洋館観光案内と南山手レストハウスでの講習会も追加で実施しました。

◎3 月 20 日(祝)は伝習所まつりでの体験会と、夜は地元の The O'Ttories さんを迎えて、イングリッシュカントリーダンスのイベントを企画。

このほか、歴史研究も含むペーパー「DANCE JAPON」#1~2 の制作や、ブログや youtube での広報活動等も行いました。youtube にアップした 22 年度の伝習所まつりでのダンスの様子の動画「Vintage Dance (Mar.21, 2011 Nagasaki jp).mp4」には、歴史的なダンスでつながる様々な国の方からのアクセスが続いています。

http://www.youtube.com/user/lizzy0168

http://happy.ap.teacup.com/mcnagasaki